

熊本県土木部事業概要2025

DEPARTMENT OF CIVIL ENGINEERING OVERVIEW 2025



熊本港(熊本市)



国道389号下田南バイパス(天草市)



御溝川二次放水路(人吉市)



©2010 熊本県くまモン



小川工業高校実習棟(宇城市)

土木部の施策展開の方針

「くまもと新時代共創基本方針」の4つの柱のうち、以下3つの柱に沿った取組みを土木部の施策展開の方針とする。

くまもと新時代共創基本方針 基本理念

県民みんなが安心して笑顔になり、持続的で活力あふれる
熊本の未来を共に創る
～世界に開かれた熊本、世界へ羽ばたく熊本～

1 県民の命、健康、安全・安心を守る

県民の皆様と共に対話と挑戦を続けながら、あらゆる人が安心して暮らせる熊本、また、熊本全体がやさしい人たちで溢れる未来を目指す。

2 世界に開かれた活力あふれる熊本

熊本が世界から注目を集めているこの機会を最大限に活かし、県の強みを更にステップアップさせ、様々な産業の更なる振興と県内全域における活性化につなげていく。

3 こどもたちが笑顔で育つ熊本

教育機関、行政、企業等が連携し、熊本の未来を担うことができる人材の育成に向けた取組みを推進する。

1 県民の命、健康、安全・安心を守る

1-1 令和2年7月豪雨からの創造的復興

● 公共土木施設の復旧

令和2年7月豪雨で発生した公共土木施設の被害について、直轄代行（国道219号や球磨川で流失した10橋、球磨川水系の県管理河川の一部）による、国のご支援もいただきながら、早期復旧に取り組んでいます。



被災状況
万江川(山江村)



復旧完了



被災状況
西瀬橋(人吉市)



完成

● 緑の流域治水の推進

◆ 安全・安心を実現する治水対策の推進

令和2年7月豪雨の被災地をはじめとする様々な地域において、河川整備計画等に位置付けた、宅地かさ上げや河道整備等の治水対策を推進し、流域の安全・安心を確保します。また、集水域や氾濫域の関係者と連携し、流域全体で被害を軽減させる「流域治水」の取組みを推進します。

◆ 万江川における土砂・洪水氾濫対策の実施

都道府県で全国初の取組みとして、万江川（山江村）では砂防・河川・治山事業が連携しながら流域全体で土砂・洪水氾濫対策を推進します。

※土砂・洪水氾濫とは：豪雨により上流域から流出した大量の土砂や流木が下流の河道で堆積し、河床上昇・河道閉塞等が引き起こされ、下流で土砂と泥水の氾濫が発生する現象。



砂防・河川・治山事業が連携した対策のイメージ

● 防災・安全交付金事業、災害復旧助成事業 等

主要
事業

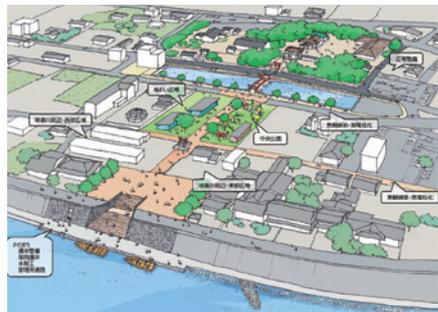
・球磨川水系 油谷川、吉尾川、芋川、山田川、御溝川、川辺川、田頭川 等

● 大規模特定砂防事業

● すまい・コミュニティの創造

令和2年7月豪雨により甚大な被害を受けた人吉市青井地区において、「人吉市復興まちづくり計画」に基づき、緊急輸送道路である国道445号の改築、土地区画整理事業による区画道路や公園等の整備を行い、防災機能の向上及び宅地の利用増進を図ることで公共施設の整備改善及び被災市街地の復興まちづくりを支援します。

計画平面図



青井阿蘇神社周辺のまちづくりイメージ



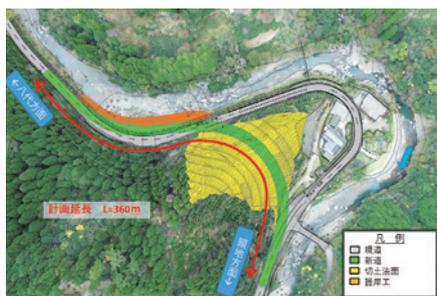
整備済の区画道路

● 災害に強い道路ネットワーク整備

五木村については「ひかり輝く」新たな五木村振興計画」等に基づき、相良村については「未来につなげるむらづくり」の実現に向けて、「国道445号」や「県道宮原五木線」等の整備による道路ネットワークの強靭化を推進します。



<整備状況>
国道445号（九折瀬工区）（五木村）



<改良概要>
県道宮原五木線（橋工区）（五木村）



<改良概要>
国道445号（相良バイパス）（相良村）

1-2 熊本地震からの創造的復興

● 益城町の復興まちづくり

市街地に甚大な被害を受けた益城町においては、町の中心軸となる県道熊本高森線の4車線化及び町の都市拠点となる木山地区の土地区画整理事業に取り組むなど、熊本都市圏東部地域の更なる発展を目指し、創造的復興のシンボルとなるまちづくりを支援します。

また、被災地域の活性化と災害に強いまちづくりを促進するため、益城町と連携しながら住民との協働による市街地の再生・再構築を支援します。

◆ 熊本高森線の4車線化



開通区間の様子

◆ 土地区画整理事業（木山地区）



整備状況



木山交差点の完成イメージ

1-3 災害に強い県土づくり

● 高規格道路ネットワークの整備

「すべての道は熊本に通じる」という考えのもと、物流の効率化・人流の円滑化を図るとともに、九州圏内のダブルネットワーク構築に向け、九州の横軸となる「九州中央自動車道」や「中九州横断道路」、九州南西部をつなぐ「南九州西回り自動車道」、福岡・佐賀とつなぐ「有明海沿岸道路」など、高規格道路の整備を促進します。

また、熊本都市圏と県内主要都市を90分で結ぶ「90分構想」の実現、さらには、能登半島地震の被災状況を踏まえ、半島・離島からなる宇土・天草地域におけるダブルネットワークの構築に向け、熊本天草幹線道路の整備を推進します。

「九州を支える広域防災拠点構想（R.4.8改定）」を踏まえ、南海トラフ巨大地震などの大規模災害発生時において、本県と近隣県相互の受援・支援を可能にする、「命の道」としての基幹道路ネットワークの整備を進めていきます。

主要
事業

- 九州中央自動車道（九州横断自動車道延岡線）
- 南九州西回り自動車道
- 中九州横断道路
- 有明海沿岸道路
- 熊本天草幹線道路



九州中央自動車道「山都通潤橋IC」 開通



熊本天草幹線道路「大矢野道路」新大矢野トンネル貫通式（上天草市）

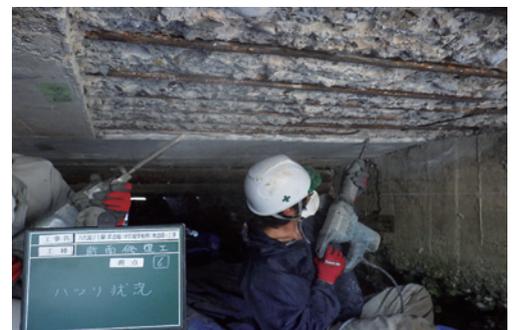
● 防災・減災、国土強靱化の取組み

◆ 老朽化した橋りょう等の補修及び耐震化等

県管理道路橋の安全性・信頼性を確保するため、老朽化対策については、近接目視による定期点検を基に「点検・診断・措置・記録」のメンテナンスサイクルを確実に実施することで、計画的な補修を行います。

また、耐震対策については、災害時に重要な路線となる緊急輸送道路路上にある橋りょうのうち、架設年次が古く、現行の耐震補強基準を満たさない橋りょうに対して耐震補強を実施します。

さらに、住宅の耐震対策について、市町村や関係団体と連携し、普及啓発を行うとともに、耐震診断及び改修を支援します。



主要
事業

- 道路施設保全改築事業
- 単県橋りょう補修事業
- 単県橋りょう改築事業
- 住宅耐震化緊急促進事業

◆ 県有施設の整備・維持保全

土木部では、各施設所管課からの依頼を受け、県立高校を含む県有施設の整備、計画的な保全を行うほか、市町村の営繕工事等に対する技術的支援を行っています。県有施設の整備・改修に際しては、木造化・木質化を推進するとともに、既存施設のZEB化改修など、省エネ性能向上の取組みを行っています。

県営住宅については、高齢者や子育て世帯のニーズを踏まえ、長寿命化計画に基づく改修工事のほか、UD改修工事、省エネ対策として照明のLED化工事などを行っています。

主要
事業

- 県有施設整備
- 木造設計アドバイザー普及事業
- 保全改修事業
- 公営住宅ストック総合改善事業



熊本工業高校実習棟

1-4 建設産業の振興

● 働き方改革・人材確保

社会基盤整備の担い手であり、「地域の守り手」である建設産業が持続・発展できるよう、週休2日制による働き方改革や、ICT活用工事等による生産性向上を推進します。また、建設産業団体や関係機関と連携して、建設産業の役割や魅力を発信し理解促進を図るとともに、高校生等向けの県内建設企業説明会の実施などにより、若者をはじめ多様な人材の確保・育成に取り組めます。



建設産業関係団体からの説明会（高校生向け建設産業ガイダンス）

● 建設DXの推進

建設産業の労働力不足を補い、施工の効率化や安全性向上を図るため、ドローン等による3次元測量や3次元設計データ等を用いたICT建設機械による施工などの「ICT活用工事」やモバイル端末等を活用した「遠隔臨場」を推進します。さらに、施工に関する研修会や見学会を開催し、受注者が積極的に取り組める環境を整備します。また、土木部が所管する施設台帳等を一元的に管理する「施設管理データベースシステム」を構築し、令和7年度から本格運用しています。本システム内の保有データをオープン化することにより、必要な施設情報を容易に取得できるようになるため、施設管理の効率化に加え、県民の利便性向上が期待できます。



参照：「建設現場の遠隔臨場に関する試行要領（案）」
（国土交通省 大臣官房技術調査課）

主要
事業

- 建設産業担い手確保・育成事業
- 公共工事の建設現場等におけるDX事業
- 施設管理データベースシステム運用事業

2 世界に開かれた活力あふれる熊本

2-1 半導体関連産業の集積強化

● セミコンテクノパーク周辺のインフラ整備

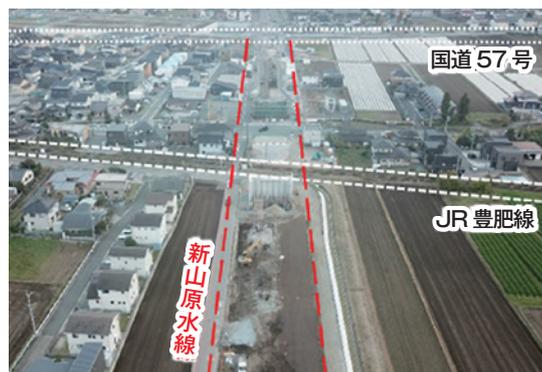
世界的半導体企業の進出を契機として新生シリコンアイランド九州を実現させ、その効果を日本全体に波及させるため、中九州横断道路の整備を促進します。

また、半導体関連産業の集積に伴う物流の効率化と人流の円滑化を図るため、県道大津植木線の多車線化や中九州横断道路合志インターチェンジへのアクセス道路などの整備を短期・集中的に進め、基幹となる道路ネットワークの強化に取り組めます。

さらに、セミコンテクノパーク周辺において、今後増加が見込まれる半導体関連工場の排水を適切かつ確実に処理し、都市の健全な発展及び水環境を保全するため、特定公共下水道による新たな下水処理場の整備に取り組めます。



セミコンテクノパーク周辺の道路整備状況



〈整備状況〉新山原水線（菊陽町）

主要
事業

- 中九州横断道路
- 県道大津植木線他車線化
- 合志インターチェンジアクセス道路
- 県道新山原水線
- 国道387号（須屋工区）等

● 港湾機能の強化

物流・人流の拠点として、「世界に開かれた活力あふれる熊本」「新生シリコンアイランド九州」の実現による更なる経済成長につなげるとともに、大規模災害発生時には防災の拠点として県民の命と暮らしを守るため、機能強化に向けた港湾施設の整備を進めます。

- | | |
|--------|---|
| 主要事業 | ● 物流拠点機能向上事業 ● 心頭用地造成事業 ● 臨海用地造成事業 ● 港湾整備事業 等 |
| R7整備内容 | ● 熊本港：心頭用地造成、臨海用地造成 ● 八代港：コンテナターミナル拡張、臨海用地造成
● 各港：港湾施設の戦略的な維持管理・更新 |



熊本港



八代港



水深の確保（浚渫状況）

2-2 熊本都市圏渋滞対策

● 渋滞解消推進本部

熊本都市圏の渋滞問題は、特に菊池南部地域における半導体企業の進出なども相まって、今後、対策を講じなければ更に深刻化することが予想されます。県では、渋滞対策を迅速かつ強力で推進するため、令和6年6月に渋滞解消推進本部を設置し、短期・中期・長期の対策に、関係者が一丸となって取り組んでいます。

- | | |
|------|------------------------------|
| 主要事業 | ● 熊本都市圏渋滞対策事業 ● 総合都市交通体系調査事業 |
|------|------------------------------|



熊本県渋滞解消推進本部会議（第1回本部会議R6.6）

● 「10分・20分構想」の推進

熊本都市圏の慢性的な交通渋滞解消など喫緊の課題解決のため、「熊本県新広域道路交通計画（令和3年6月策定）」において、熊本市中心部から高速道路までを約10分、阿蘇くまもと空港までを約20分で結ぶ「10分・20分構想」を掲げ、「熊本都市圏北連絡道路」「熊本都市圏南連絡道路」「熊本空港連絡道路」の3路線を新たに高規格道路に位置付けています。この3路線を早期に実現するため、国の協力をいただきながら、熊本市と連携して、計画の具体化に向けて取り組みます。

- | | |
|------|-----------------------|
| 主要事業 | ● 道路計画調査事業 ● 単県道路調査事業 |
|------|-----------------------|



10分20分構想 概略図

2-3 魅力ある地域づくり

● くまもとアートポリスの取組み

専門家の知見を建築設計やまちづくりに活かす「くまもとアートポリス事業」は、プロジェクト事業を中心に、人材育成や普及啓発などを行い、若手技術者や学生をはじめ県民が広く参画する機会を設けるとともに、木造建築の推進、災害対応力の強化に繋がる地域コミュニティの形成支援、建設産業の担い手確保など、地域の活性化に資する取り組みを行っています。

- | | |
|------|--|
| 主要事業 | ● プロジェクト事業 ● 顕彰事業（アートポリス推進賞）
● 企画・広報・人材育成事業（シンポジウム、現場見学会、こども建築塾、広報誌・SNS等での周知） |
|------|--|



相良村川辺川魅力創造事業・交流拠点施設
（プロポーザル提案イメージパス）



南阿蘇鉄道高森駅・交流施設
（高校生向け現場見学会）



芦北町地域優良賃貸住宅友田団地

3 こどもたちが笑顔で育つ熊本

● 県営住宅の整備、空き家対策

子ども・若者・子育て世帯の視点に立ち、「こどもまんなか」の取組みを推進するため、県営住宅における子育て世帯向けの住戸改善や市町村が実施する子育て世帯向けの空き家改修の支援を行い、安全・安心で快適に暮らせる住環境の整備に取り組みます。

主要
事業

- 公営住宅ストック
総合改善事業
- 空家等対策総合支援事業



県営住宅の子育て世帯向け改修のイメージ
(見守りが可能な対面キッチン)



空き家となっていた旅館を交流施設に改修
子どもたちの学習スペースとしても活用

● 交通安全対策

安全で安心な交通社会の実現を図るために、歩道や交通安全施設の整備、無電柱化、自転車走行空間の整備等に取り組みます。特に、小中学校通学路の安全性向上については、歩道整備等の本格対策に加え、カラー舗装などの早期に効果を発揮する応急対策を重点的に実施します。

主要
事業

- 交通安全施設整備事業
- 自転車空間整備事業
- 無電柱化計画推進事業
- 単県交通安全施設整備事業

◆ 土木部の最近の主な動き

● 熊本都市計画区域マスタープランの改定及び 熊本都市圏都市交通マスタープランの策定

人口減少、少子高齢化の進展、慢性的な交通渋滞などの課題に加え、激甚化・頻発化する自然災害への対応やTSMC進出に伴う新たな産業集積への対応など様々な社会情勢の変化に伴い、土地利用や交通状況にも大きな変化が生じています。

こうした課題や変化に対応するため、熊本都市圏総合交通協議会において令和7年度中の策定（改定）に向けた取組みを進めています。



熊本都市圏総合交通協議会（第5回委員会R6.12）

● 盛土規制法への対応

盛土等に伴う災害から人命を守るため、土地の用途（宅地、農地、森林等）にかかわらず、県内全域※を規制区域として、令和7年4月1日に指定し運用を開始しました。

盛土等の許可事務や指導等に迅速に対応することで、盛土等に伴う災害の防止に向けて取り組みます。

※熊本市内は、熊本市が指定

宅地造成等工事規制区域【宅造区域】
市街地や集落など盛土等が行われれば
人家等に危害を及ぼしうるエリア

特定盛土等規制区域【特盛区域】
地形等の条件から、盛土等が行われれば、
人家等に危害を及ぼしうるエリア等



■規制区域のイメージ

● 道路啓開計画の策定

大規模災害時には、流出した家屋や倒壊した構造物等の瓦礫、放置された車両の散乱に伴い、円滑な人命救助、救援・救出活動に支障をきたすおそれがあります。

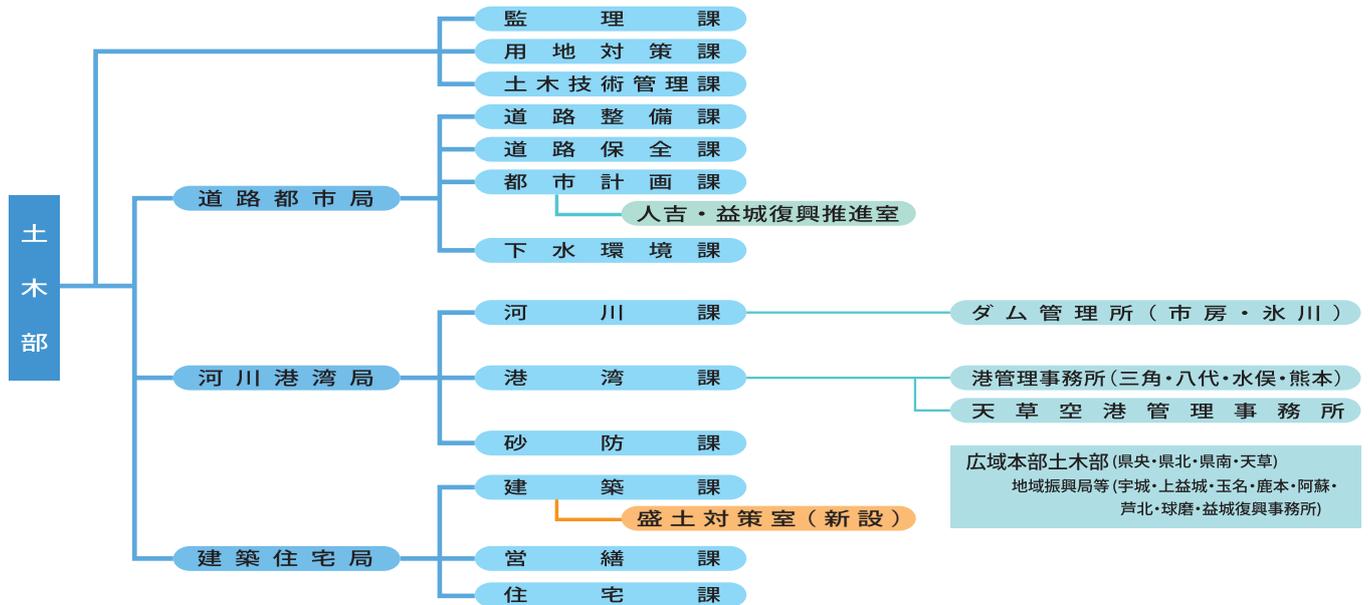
このため、最低限の瓦礫処理や放置車両の移動等を行い、救助・救援ルートを確認する道路啓開が必要となります。

本県では、熊本県緊急輸送道路ネットワーク等協議会において、令和6年12月に道路啓開の手順や体制などを定めた道路啓開計画を策定しました。災害時に、速やかに初動体制が取れるよう、定期的に道路啓開訓練を実施します。



熊本地震時に道路が塞がれた状況（益城町）

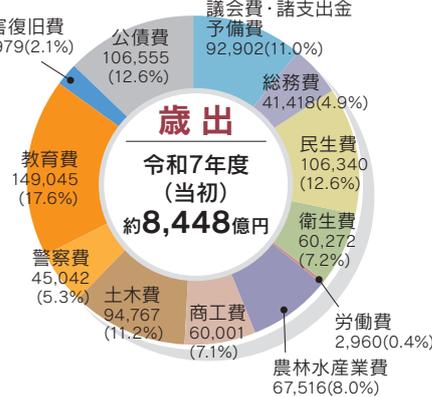
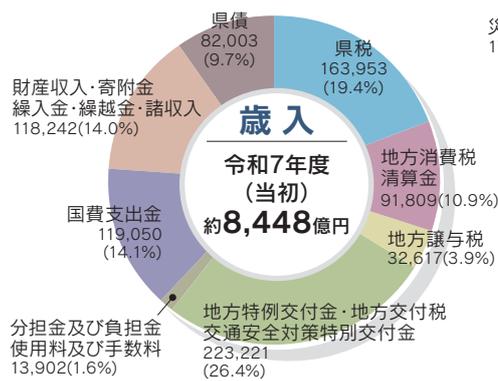
組織・機構



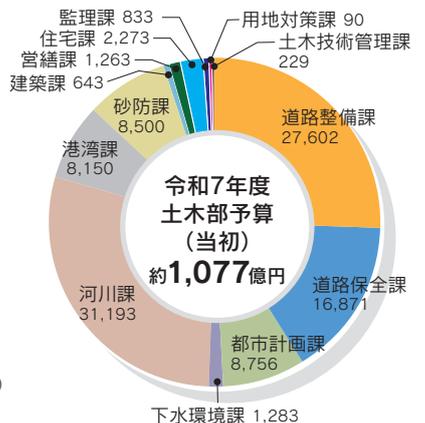
予算の概要

※単位:百万円()内は構成比
※各項目についての計数は、表示単位未満を四捨五入したもので、その内訳は、合計と一致しない場合があります。

令和7年度熊本県当初予算(一般会計)



土木部各課の予算(一般会計)



土木部当初予算等の推移(一般会計・投資的経費)

※当初予算等とは、骨格予算編成時においては肉付けした予算の合計額。

